

第7回コミュニケーション講座

10月2日(土)に開催しました。

テーマは「きこえを助ける機器、便利なツール」。

(株)ジャパンディスプレイ渡木氏による

See-Through-Captionsという透明ディスプレイについてのご講演でした。実際に体験してみることができました。会話しながら、文字を見ることができます。透明ですから、表情や身振りも同時に見ることができます。難聴者にとっては、まさに待ち望んでいたツールです。音声認識についても、ほとんどタイムラグなく、話す人にもよるでしょうが、マスクをしても認識がスムーズでした。今後、高齢社会のなか、きこえにくい人は、ますます増えることが予想されますし、高齢でなくても、きこえにくい人にとっては、便利なツールです。将来は、どこにでも備えてあるような社会が望まれます。また、携帯電話のように持ち歩けるようなものになることを期待しています。

補聴相談室から

補聴器について

補聴器や人工内耳は、水分、湿気に弱いです。

使っている方なら、当然知っていらっしゃると思うのですが、補聴器の調子が悪いと言って持ってこられる方に聞いてみると意外にケアができていないです。補聴器を使用したあとは、乾燥剤が入っている容器に入れて、その日その日の湿気を除去してほしいです。補聴器を購入した時に補聴器用乾燥ケースが付いてくることが多いですが、専用のものがなくても、密閉できる容器に乾燥剤を入れていただくといいです(ジャムの瓶などでもOK)。補聴器が故障して修理に出して戻ってくると、中の部品が茶色くさびていることが多いです。乾燥剤も永遠に使えるわけではないので、数か月で新しいものに交換してください。

当センターの事業についてのお問い合わせは
電話(0466)27-1911/FAX(0466)27-1225
メール soudan@kanagawa-wad.jp 担当 大本



ポCKETークmimi

AIボイス筆談機です。電源ボタンを押したら製品に向かって話すだけ。話したことを文字にして画面に表示します。置いて使える「タブレット」と持ち運びに便利なコンパクトサイズの2タイプあります。タブレットタイプは、相談の場でも使うことがあります。確かに話し方によっては誤変換もあるので、筆談を完璧に補うものではないかもしれませんが、便利なものだと思います。相談室に実物がありますので、試してみることもできます。一度手に取ってみてはいかがでしょうか。

